

若者を考える、若者と考える

YOUTH SERVICE

VOL. 38

若者と支援者をつなぐ広報誌

YOUTH SERVICE VOL. 38

2021年10月25日発行



特集

子ども・若者 ケアラー

～ユースサービス協会での取り組み～



— CATCH YOUR DREAM —

京都つくば開成高等学校

通信制 / 単位制 / 普通科

申込不要

学校説明会

場所 本校舎2階 時間 14:00～16:00 (受付 13:30～)

内容 学校紹介、募集要項説明、校舎見学、在校生による学校生活の紹介、個別相談

6月 7月 9月 10月 11月 12月 1月 3月
12日[土] 3日[土] 4日[土]* 2日[土] 6日[土] 4日[土] 8日[土]* 29日[土] 12日[土]

*9/4・1/8は10:00～11:00 (受付9:30～)も開催します。

アクセス

●JR「京都駅」改札より北西へ徒歩8分
●京阪電車「七条駅」3番出口より西へ徒歩14分
〒600-8320 京都市下京区西洞院通七条上る福本町406番
できる限り公共交通機関をご利用ください。

お問い合わせ

TEL.075-371-0020 FAX.075-371-0021

E-mail:info@tkaisei-kyoto.jp

URL:https://kyoto.tsukuba-kaisei.ed.jp/



特集

もっと友だちと遊びたかった

子ども・若者 ケアラー

～ユースサービス協会での取り組み～

兄弟で世話をする
度合いに差がある

進路選択のときに
家族から離れることに
戸惑いがある

友達には
言えない

夜がどうしても
遅くなってしまい、
学校で眠くて怒られた

「昨日」、ますます目に触れる機会が多くなっている「ヤングケアラー」という言葉。家事や幼い兄弟の世話、介護といった、大人が担うと想定される役割を、「お手伝い」の範囲を超えて日常的に担っている子どもたちのことを言います。背景として、家族に障がいや病気があるケース、アルコール・薬物・ギャンブルなどの依存症が潜んでいるケースもあります。

一般的にこの「ヤングケアラー」という言葉を使う場合には、18歳未満の年齢の子どもを指しますが、中には18歳を超えてからもケアラーの役割を担い続ける人たち、「若者ケアラー」ともいいます。進学や就職等の将来について考える年代でもなかなかならず、自分のための時間を充分確保しづらく、そのために将来の選択肢そのものが限定されてしまったり、若者年代ならではの困難も生じ得ます。私たちは、「ヤングケアラー」「若者ケアラー」ともに現状を知り、考えていく必要があります。

当協会では、「ヤングケアラー」「若者ケアラー」をあわせて、「子ども・若者ケアラー」という言葉であらわし、2016年度の事業開始以来、様々な取り組みを展開してきています。今回の特集では、それら取り組みの概要と、ともにケアラー事業に尽力いただいている立命館大学の斎藤教授のお話から、「子ども・若者ケアラー」について考えてみたいと思います。

ぷちメッセージ

ホッと一息

特定非営利活動法人
山科醍醐こどものひろば
事務局長
品田真孝



私は、京都市山科区、伏見区醍醐地域で子どもの育ちを応援しているNPO法人山科醍醐こどものひろばの事務局で働いています。大学生時代の友人に誘われたことがきっかけでボランティア活動をはじめ、子ども、若者の居場所づくりがしたくてNPOの仕事に就きました。

しかし、コロナ禍で1年以上も活動が大きく制限がされ、あれも出来ないこれも出来ないということが続いています。子どもも大人も関係なく、我慢しなければならない日が続き、不安も不満も積もっていきます。

一方で、出来ないならば仕方ない。出来ないことを理由に「こら辺でホッと一息ついて、立ち止まってみてもいいじゃないか」「せっかくだしゆっくりしていこう」そんな風にも思っています。急に社会環境が変わったため、やり方や考え方も変わっていかねばいけないのかもしれませんが。この我慢しなければいけない日常をいつか振り返った時に、皆さんはどのように思い、感じるのでしょうか。

contents

- 3 特集
子ども・若者ケアラー
- 6 高校生と作ったページ
高校生が「18歳成人」
について考える
- 8 シリーズ
はたらく若者
- 10 PICK UP
協働している団体をご紹介!
- 12 TOPICS
相談できます
- 14 ユースかわら版
“きたせい”に行こう! ほか

公益財団法人 京都市ユースサービス協会は、京都市内7か所の青少年活動センターと、子ども若者総合相談窓口、生活困窮世帯の学習支援事業、社会的養護自立支援事業の一体的かつ効果的な運営を指定管理者として受託しています。青少年活動センターは、それぞれの施設・設備に特徴があって、個性的な事業活動をしています。また、厚生労働省から若者サポートステーションの運営を受託し、若者の社会的自立や職業的自立に向けた支援も行っています。

ユースサービスの理念

「ユースサービス」とは、子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援することです。子どもたちが家庭、学校、地域社会、職場などを通じて成長し、自分自身の興味や関心を高める過程で、必要に応じて助言や情報、または多様な人的・物的資源が得られるような機会を提供します。そして、青少年自身の積極参加によって、青少年と協働した豊かな地域社会を創り出すことを目的としています。





齋藤 真緒教授

立命館大学 産業社会学部教授
立命館大学社会学研究科博士課程修了
専門は家族社会学。思春期保健相談士。事例検討会発起人。
「子ども・若者ケアラー」支援のための予備的考察-＜ケアラー＞
支援と＜子ども・若者＞支援との接合-」『立命館産業社会学論集』
55巻2号(2019年)

「ヤングケアラー」に社会的な注目が集まる以前から、事例検討会事業で私たちは、あえて「子ども・若者ケアラー」という言葉を使い、「18歳」の断絶を乗り越える視点の重要性を訴えてきました。

厚生労働省と文部科学省の共同プロジェクトチームは、実態調査の結果を踏まえて、学校などでのヤングケアラーの早期発見・把握や、福祉サービスの柔軟な運用を含む支援策の充実を主たる支援策として掲げていますが、これらは、固定化してしまったケアラーの負担を事後的に軽減することが中心となっています。また、支援策の策定の過程において、子ども・若者ケアラーの声が十分反映されているとは言えません。保護・救済の対象として、「子ども・若者」を位置づけるのではなく、権利主体として「子ども・若者」を真ん中にすえた支援、つまりユースワークの視点を取り入れた支援の構想が求められています。「私たち抜きに私たちのことを決めないで Nothing About us without us」は、障がい者運動に端を発するとても重要なスローガンで、子ども・若者ケアラー支援にも通じるものです。支援一被支援という一方的な関係ではなく、子ども・若者自身が、主人公となって、ケアラーという自分自身の経験を通じて、周囲との関係や社会との関係を見つめなおし、新しいつながりをつくっていく、そういう場や関係性を提供できるのではないかと考えます。

家族にかかわるケアはとても複雑なものです。家族のために何かしたいという気持ちと、自分の人生のための選択が相対立することもあり、ケアする子ども・若者はいろいろな葛藤を抱えます。そして何よりも、子ども・若者は自分たちの家族しか知らないで、それを「当たり前」と思ってしまうがちです。ほかのケアラーと出会い、いろいろな気持ちや考えに触れることで、これまで想像しなかった、自分らしい人生のための新しい選択肢を見つける、そんな可能性を秘めた出会いの提供を協会には期待しています。

アクションリサーチプロジェクト

齋藤教授と「大学生ケアラーの会」メンバーが発起人となり、今年7月より立ち上げに向けて動き始めた新しいプロジェクトです。このプロジェクトは、「ヤングケアラー」という言葉が浸透してきている一方で、「ケアラー」について議論する場に当事者や元当事者が不在であることに対する問題意識から始まりました。アクションリサーチすなわち社会的実践と結び付けた研究を通して、当事者の声を元にした支援策を提言したり、当事者の声をより具体的な形にするための活動を考えたりすることを目指しており、そこにユースサービス協会もコミットメントしていきます。



事例検討会

子ども・若者ケアラーの実態を把握すること、また、支援者の領域を超えたネットワークの中で支援策を検討することを目的に、2017年3月からこれまで14回実施してきました。子ども・若者ケアラー当事者や彼らと関わる支援者からの事例報告をはじめとして、事例に関する意見交換やゲスト対談も行い、当事者・支援者両方の視点から「ケアラー」について考える場となっています。昨年度末に実施した事例検討会には、北海道や関東といった遠方からの参加や高校生の参加もあり、関心の高まりが感じられました。



【これまでに報告のあった事例】
●保健室にやってくる生徒の話から見える高校生ケアラーの実態(高校養護教諭より)
●精神疾患がある家族のケアについて(母親のケアを経験した元若者ケアラー当事者より)
... etc

当事者のつどい 『いろはのなかまたち』

2018年10月より、中学生から30歳までの子ども・若者ケアラー当事者や経験者の語りの場『いろはのなかまたち』を開いています。「自分の思いを他の人に話したい」「同じ立場の人に会ってみたい」「もしかしたら自分もケアラーにあてはまるかもしれない」等をきっかけに集まったメンバーで、互いの経験や思いを語り合います。昨年11月以降は毎月第2土曜日14時から定例開催となり、コロナ禍においてはオンラインでも活用しながら場をひらいています。

参加者の声

私にとってつどいとは、家族に言えない複雑な気持ちや人間関係の悩み、自分のメンタルヘルスのことを打ち明けられる場です。



協会HPで動画をチェック!

動画作成

当事者のインタビューをベースにしたショートムービーを作成し、次の目的を持って発信しています。

当事者に 向けて...

- ✓「一人じゃないよ」というメッセージの発信
- ✓自分のケアを客観的にとらえる一つの材料にしてもらう
- ✓ケアをしている若者同士がつながれる場の周知(『当事者のつどい』)
- ✓自分のケアを見守っている大人(支援者、協会といった相談先の周知)

支援者に 向けて...

- ✓「子ども・若者ケアラー」についてまず知ってもらおう
- ✓身近な若者の状況に対する捉え方に、「ケアラー」という視点を増やしてもらおう
- ✓ケアをする若者について考える場があることの周知(『事例検討会』)
- ✓渦中にある若者へのプロジェクト、協会等の情報を提供する

インターン生特別企画

高校生が「18歳成人」 について考える

～来春から成人年齢が変わる!?!～

2022年4月1日から成人年齢を18歳に引き下げる
「民法の一部を改正する法律」が施行され、成人年齢が18歳以上へと変わります。
そこで高校生3人に「18歳成人」についてインタビューし、考えてもらいました。



18



Q「18歳成人」って?

A 「18歳成人」とは、2022年4月から成人年齢が18歳に引き下げられ、18歳以上の若者が成人として扱われることです。世界的には成人年齢を18歳とするのが主流で、これを踏まえた結果、日本の民法(生活のルールを規定する法律)においても、18歳以上の若者を成人として取り扱うのが適当ではないかという議論がされるようになりました。近年、選挙権年齢などが18歳と定められ、18歳以上を成人として扱うという法整備が進められています。そして、来年4月1日から成人年齢引き下げの法律が施行される運びになりました。

Q成人になるとできること、メリットは何があるの?

A 成人になると自己決定権が尊重されるようになり、社会参加が促されるようになるため、クレジットカードや、携帯電話など色々な契約を結び、10年間有効のパスポートを取得する、国家資格に基づく職に就くなどができるようになります。ただし、飲酒・喫煙、公営ギャンブルは20歳以上にならないとできません。

成人になるとできること

- ・契約を結ぶことができる
(例) 換金電話の購入、アパートを借りる、クレジットカードを作成
- ・10年有効パスポートの取得
- ・国家資格に基づく職に就けるようになる
- ・自分の住む場所、自分の選挙区を自分の意思でできるように(ただし、決まったり、継や教訓の理解を得ることが大切なことには変わりない)

ただ、公営ギャンブル、飲酒・喫煙は20歳になってからのまま

出典: 法務省(注: 権利保護等) 改正04

18歳成人とは?

・民法、選挙権年齢などが18歳と定められ、18、19歳の方を大人として扱うという法律が定められている。

・これを踏まえ、民法(生活の中の法律)においても、18歳以上の人を大人として取り扱うのが適当ではないかという議論がされるように。

・世界的にも、成年年齢を18歳とするのが主流。

・成年年齢を18歳に引き下げることは、18歳、19歳の若者の自己決定権を尊重し、社会参加を促す。

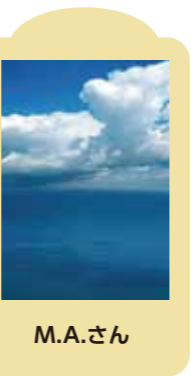
・結果、2022年4月1日から成人年齢引き下げの法律が施行へ。

出典: 法務省(注: 権利保護等) 改正04

Qメリットとデメリットは何があるの?

A メリットは、民事裁判を法定代理人抜きでできること、色々な契約を結びることができること、メリットとしてあげられます。デメリットは、例えば契約に関するところで、若者の消費者被害が拡大する恐れがあるということ、未成年者取消権という保護者が契約を白紙に戻せる権利を行使できなくなるというのがあります。契約以外でも、親権対象の年齢が引き下がることにより自立に困窮した若者が親の保護を受けられなくなるなどがデメリットとしてあげられます。

来年度から18歳成人にあたる、高校3年生の3人に消費者被害拡大防止のためにやるべきこと、成人になるにあたって心がけたいことを聞いてみました!



M.A.さん

学校で消費者被害防止のための講演会を開くのがいいと思います。私の高校では夏休み前に警察の方が来られてこのような講演会を開いてくださいました。実例を基に制作されたドラマを見ました。ドラマを見て自分だったらどうするかと考えることができました。また、このような教え方だと内容がはいってきやすいと思うので、映像作品を用いるのが良いと思いました。あとは学校でこのような授業を課するのがいいと思います。私は選択授業で政治経済を選択しており、消費者被害についてのことを学びました。しかし、違う選択科目を選んできたら、消費者被害について学ばないまま高校を卒業してしまいます。なので、必修授業のようにして取り上げた方がいいと思います。



成人になるにあたり、大人って何だろうというのを考えていきたいです。色々な経験を積んでいたら大人になろうと思うし、考える上でも大事なので色々なことに参加して経験を積んでいきたいと思ってます。

すぐにお金が入ると思わないようにして、そういうのがあっても絶対のらないようにするとか、何かやってみませんかと誘われた時に自分一人決めずに、親しい人や家族じゃなくてもいいですが、相談してからにするとか、ある程度学校とかでそういうのを教えてほしいと思います。

心かげたいこととして、行動に自覚を持ちたいです。自分は今後まだまだ実家暮らしになるとは思いますが、外に出ると18歳以上であれば成人という扱いになります。一人の成人として行動に責任を持ちたいです。実家暮らしでも、親のお金だからといって無駄遣いしたり、いっばいものを買ったりするのはではなく、いざ一人暮らしをすると思うので、一人暮らしをしていると思うて家の家計を考えながら生活したいです。



I.N.さん

教育の場で、消費者被害のようなことを授業であまり扱っていないのが課題としてあると思います。学校でこのようなことができない場合は成人式などの案内と一緒に、消費者被害に遭わないためのセミナーを開催してみたいと思います。

気がつけないういけないうこととして消費者被害だとかそういったこともあります。例えば、幼稚園や小学校に行っている、家から外に出ている限り社会に関わりは絶対していると思います。気がつけないういけないうことは一緒っていうのがありますし、成人したらそういう大切なことが増えるだけで、やらないといけないことは一緒なのだと思います。



Y.S.くん

来年度から18歳成人に該当する高校生3人にインタビューすると、それぞれ異なる考えを持っていて色々な意見などを聞くことができ、このような見方・考え方があったのかと私自身すごく驚かされましたし、価値観や視野が広がったように感じました。インタビューに応じていただいた高校生お三方ご協力ありがとうございました!

この高校生ページが、皆さんに今起こっていること、これから起こることについて目を向けるきっかけに少しでもなってくれば、嬉しく思います。(インターン 田代)

まとめ

18歳成人について私自身詳しいことはあまり知りませんでした。調べる前は正直な所「ふーん。そうなんだ」っていうくらいの印象しかありませんでした。強いと言うなら、選挙権の年齢が変わったということしか知りませんでした。高校生にインタビューするための準備を進めていくにつれ、18歳成人について知ることができたと思います。どういった問題があるのかとか、どういったことが起こると予想されるのかとか、高校生の皆さんに伝えるように努め、広報誌の文面を作成しました。

来年度から18歳成人にあたる、高校3年生の3人に消費者被害拡大防止のためにやるべきこと、成人になるにあたって心がけたいことを聞いてみました!

この高校生ページが、皆さんに今起こっていること、これから起こることについて目を向けるきっかけに少しでもなってくれば、嬉しく思います。(インターン 田代)

はたらく若者

第9回

終身雇用制度は崩壊し、働き方が大きく変化している今日。一人ひとりでみるに、よくある話かもしれませんが、でも複数回並べてみると、そのはたらく姿から現代の若者のすがたがあまり出されるのではないかと。「はたらく」から若者の今を見つめます。

須山 千尋さん 29歳
HOTEL ANTEROOM KYOTO勤務

今の仕事について教えてください。

「アート&カルチャー」をコンセプトにした京都のホテルで働いています。2015年4月に入社して今年で7年目です。もともと美術系高校と美大出身なので、デザインの仕事などに興味を持ちつつ、接客をベースにした仕事を探していたときに今の職場に出会い、ホテルとギャラリーという組み合わせに惹かれて働き始めました。

入社当時、まずはホテル業務を覚えるところからだったので、ギャラリーやショップの仕事に関わり始めたのは3年目くらいからだったと思います。ホテルの仕事は全くの初心者だったので最初は大変でしたが、地道にがんばってきました。

フロントでの受付、バーやレストランスタッフ、ショップの管理など色々やってきましたが、あまり表には出ない業務でいうと、部屋や備品の不具合を直したり、できそうなことは自分たちでやります。今は、フロント業務をベースに、ホテル内ショップの管理や商品企画、SNS広報などを行っています。



今の仕事について、やりがいと大変

だと感じるころはなんですか？

仕事していて「いいな」と感じることは、やっぱりお客様が目の前にいて、自分がやったことや企画の反応が直接見られること。忙しくいるんな人と接していると頭がこんがらがるときもあるけど、なんだかんだ楽しいですね。

一方で、企画を考えたり、何かを作ったりする時間をとりたくても、ホテルの日常業務は常にやらなければいけないので取りかかると、やりに時間がかかってしまったり、やきもきすることはあります。

コロナ禍で業務に影響はありましたか？

ホテルに来るお客様の年齢や目的が大きく変わりました。以前に比べると客層が若くなったことで、お客様に話しかけられることが少なくなってしまうました。それと、観光案内やお案内として蓄えていた知識が、今はなかなか活かさないのが寂しい。

今の小旅行みたいな、気軽なホ

テルの使い方はこれからも続いてほしいけど、遠方からワフワフして来てくださる方へおすすめのお店や観光スポットを案内するのがやっぱり楽しいと改めて気づきました。国内だけでも遠くへ旅行ができる日々が早く戻ってきてくれたらいいなと思います。

勤続年数が増えて、社内での働

き方の変化にはどんなことがありましたか？

入社当時は全体的にホテルの基本業務を覚える事を意識して色々な事に挑戦してきました。ある程度できるようになってきた時に、自分なりに改善案ややりたい事も出てくるようになってきて、ホテルの基本の仕事以外にも「やってみない？」と言われてもらえるようになりました。最近はホテル内部の仕事だけでなく、外部の方との企画などにも関わることが増えてきています。

ホテル内ショップも、前任者から

引き継いだ時は、売り上げや在庫

の管理だけでしたが、値札や陳列の仕方など「もっと見やすくかっこいいものがよくない？」と思ったので、こっそりと変えてたんです(笑)。それから、こっそりとはなく事前上司に提案するようにしていたら、いつのまにかショップ担当になっていました。今は「商品を作ってみてもいいですか？」という提案も受けてくれてます。説得力というか、現場を知っている人からの提案の方がいいですね。時間はかかるけれども、自信をもって提案とか発言が出来るようになってきたし、周りにも納得してもらえてるかなと思います。

今後はなにかを作ること、重

点的にやりたいなと思っています。オリジナル商品の企画もまたやりたいし、ホテルの魅力を伝える広報物など作ってみたいです。またマーケティングの目線もふまえて、商品写真などの撮り方を自分で研究しています。

あとは、「アトリエ」と名付けら

れた場所がホテル内にあるんですが、そこでの教室系イベントも今年はやっていききたいですね。アンテルーム京都は元々予備校の学生寮の建物だったこともあり、「ホテル×アート」だけでなく、施設として「学び」という要素も大切にしています。ホテル全体で色んな角度から取り組んでいます。

あなたに「はたらく」をほ

自分の知らないことを知っていくことだと思います。なんのために働いているかという、なんだから楽しいからかな。知らないことを知ったり、新しいものを見たり、自分が強くなっていくというか。それがあから遊ぶ時も楽しいし、そのサイクルが日常の中で循環している感じ。元々の自分のスタンス的に、今の仕事に限らずそう思えるんだと思います。今後、仕事を変えるにしても、そう思うことができる仕事に就きたいですね。



協働している

みなさんを

ご紹介！

これまで、市内7か所にある各青少年活動センターや若者サポートステーション、子ども・若者総合相談窓口の取り組みや事業については多数取り上げてきました。しかし、私たちの活動や取り組みはそれだけではなく、たくさんのお客様との協働によって、すすめることができたり支えられたりしています。より幅広く、多様な若者を取りこぼすことなくサポートしていくためには、私たちの力だけではなく、様々な特色がある関係団体との連携・協働は欠かせません。

今回、改めて、私たち京都市ユースサービス協会と協働している団体・活動のご紹介をすることで、私たちの「協働」についても知っていただきたいと思っています。

実は、こんなステキな団体の皆さまと一緒にいろんなことに取り組んでいくんですよ！

当協会は、若者の育成を支援する団体です。主に、青少年活動センターや相談窓口に来る人たちを対象に事業を行い、その彼らの思いやニーズをキャッチして支援してきました。しかし、それは京都市の若者の一部です。センターの中で待つのではなく、若者がいるところに向いて行ってかかわることは必要だと思っていますが、私たちだけでは多くのニーズ(2020年で13歳から30歳の京都市民は約29万人もいます!)をキャッチして、それらに対応するのは困難です。

今後さまざまな団体と連携し、「ユースサービス」をひろげていきます。これからもこのような紙面を通じて、私たちと協働していただいている方々を紹介して、若者支援の広がりをご報告できればと思っています。

京都市ユースサービス協会 事務局次長 松山 廉



認定NPO法人 DXP

WEBサイト：<https://www.dreampossibility.com/>
ユキサキチャット：<https://www.dreampossibility.com/yukisakichat/>

どんな団体ですか？

1999年に前身団体である「山科醍醐親子の劇場」から名称を変え、より多くの子どもとともに活動を創るべく「山科醍醐こどものひろば」としてスタート。地域に住む全ての子どもたちが豊かに育つ社会環境や文化環境を充実させ、子どもたちの伸びやかな育ちに寄与できる団体を目指し活動しています。「子どもを真ん中に」をキーワードに、生の舞台を楽しむ活動や異年齢集団の中での子どもたちの体験活動作り、子どもと家族が自由に集える居場所づくり、子育て相談、子どもの貧困対策などを実施しています。また、ただ子どもと直接関わる活動だけではなく、より地域と子どもが結びつく、また子どもを通じて地域に何ができるのか考え、地域社会の活性化にも取り組んでいます。

ユースサービス協会との関わりについて教えてください！

京都市ユースサービス協会さんとは、子ども若者に関わる団体として様々な場面で一緒にいることがあります。協会主催であるユースシンポジウムに登壇したり、ブース出展をしていたりもしています。また、山科

どんな団体ですか？

認定NPO法人DXP(ディーピー)は、10代の孤立を解決するNPOです。10代の孤立は、不登校・中退・家庭内不和・経済的困難・進路未定・無業などにより、安心できる場や所属先を失ったときに起こります。DXPは、学校とLINE相談で10代と出合い、困った時に頼れる人とのつながりをつくります。

定時制高校では、高校生と社会人が対話する授業や校内居場所事業を実施。LINE相談「ユキサキチャット」は全国から相談を受け付けています。コロナ禍では、保護者に頼れない10代へ食糧支援・現金給付の緊急支援を始めました。2012年の創業時より関わった10代は7,282名となり、全ての取り組みは寄付で運営しています。

ユースサービス協会との関わりについて教えてください！

京都市ユースサービス協会さんとは、2019年から京都市立定時制高校の校内居場所事業を協働で運営させていただいております。京都市ユースサービス協会さんの居場所づくり支援事業で培われていたノウハウと、DXPの定時制高校

最後に一言お願いします！

青少年活動センターとは、法人拠点と同じ地域にあるということもあり、子どもの活動で施設利用をさせていただくだけでなく、共催でイベントを実施したり、地域の中学校で学習支援をするに当たり、共に呼びかけ機能になるなど、子ども、若者について考えてきました。現在は、山科での活動だけでなく、中学生学習会の醍醐地域3拠点の委託を受け、実施しています。移り変わっていく子ども若者が抱える課題について、同じ目線に立ち、寄り添いながら考える姿勢は共感する所が多いです。

7月1日に新拠点に引越をしました。コロナ禍で、子どもたちが気軽に集える場所がなくなりました。また、活動に参加している「困った」を抱えている子ども、家庭も大きく影響を受けました。そこで、日常的に子どもたちが気軽に来れ、親と喧嘩して家に居づらい、温かいご飯が食べたい、お風呂に入りたいなどのニーズに応えられる場所をもつとつくってほしい、子どもたちと楽しく交流できる場で、食事支援が出来るキッチン、宿泊できるようにお風呂などの設備を有する物件に移転しました。一軒家でゴロゴロと出来るスペースもあります。近くにきたら、ぜひ寄ってみてください。

に特化した校内居場所カフェのノウハウを持ち寄り、両団体の強みを活かした校内居場所事業を展開しております。

また、京都市外から京都市ユースサービス協会さんに相談に来られた方に、弊団体のLINE相談事業「ユキサキチャット」をご案内いただくなど、相談に来られた方に必要な支援を届けられるように団体間で連携しています。

最後に一言お願いします！

10代にとって、新型コロナウイルスの影響は厳しいものです。経済的困難や家庭内不和を抱える10代にはもちろん、文化的経験や遊びなどのさまざまな機会が失われストレスを感じているという声も多く聞いています。悩みを誰にも話せず孤立している10代とつながっていくため、ぜひLINE相談事業のご紹介をお願いします。学校・行政・支援機関など専門性を持つさまざまな団体と共に、10代の孤立という課題を解決することができれば幸いです。

また、DXPの取り組みは、個人や企業からいただく寄付によって支えられています。月額寄付サポーターは、2,000名を超えました。ぜひ、月額寄付サポーターとしてDXPの取り組みに参加いただくと嬉しいですよ。





青少年活動センター



日常的な若者との会話の中から相談が始まるのが特徴です。ユースワーカーが、何でも話せる身近な存在としてさまざまな悩みを聴いています。なかんだかすっきりしないモヤモヤとした気持ちも受け止めます。相談があるから行く場所ではないからこそ、話してくれる若者がいるのだと思います。学校や家・仕事場以外でいろいろな人に会ってみたい、ボランティアをしてみたいという話を聴き、センターのプログラムを紹介したり、社会参加につなげたりすることもあります。若者と社会をつなぐことも大切にしていることのひとつです。

相談によっては、当協会の子ども・若者総合相談窓口や、地域若者サポートステーションと協力しながら一緒に考えます。他団体や専門機関と協力することもあります。

あわせて、児童養護施設等を退所された若者(15〜30歳)の相談にも応じています。

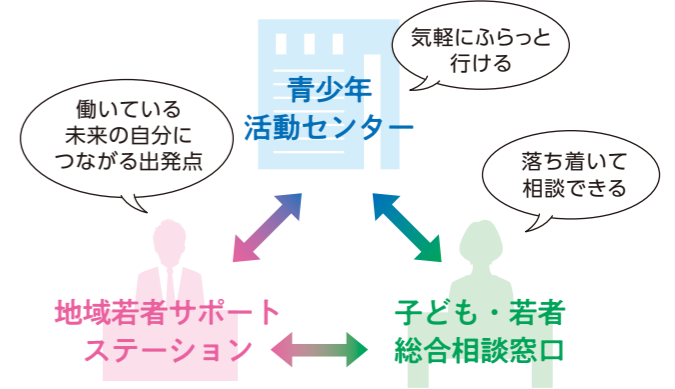
TOPICS

相談

できます

「誰かと話したいなあ」「将来が不安」「働きたいけどどうしたらいいかわからない」「学校に行きたくない」「モヤモヤする」など、若者とかかわる中でいろいろな話を耳にします。私たちは、若者のいろいろな気持ちを受け止め、一緒に考えることを大切にしています。

困った時やちょっと話しを聞いてほしい時、将来が不安になった時に、話ができる場所があることを知って欲しい。そんな思いでこのページでは、当協会の相談事業についてご紹介します。



地域若者サポートステーション



地域若者サポートステーション(サポステ)は、無業状態の15〜49歳を対象に、就労支援を実施している厚生労働省委託の支援機関です。当協会は、京都となんたんの2拠点の運営を受託しており、就労に関わる個別相談や各種プログラムを提供しています。

サポステ利用者の多くは、「就労していない」という状態によって、自信が持ちにくくなっていきます。そのため、なかなか次のステップに移れない方や、就活に向けて動き出しにくい方もおられます。そんな方のそばに寄り添い、時として向き合い、どんな人生を歩みたいか、どんな仕事に興味があるか、というところから一緒に歩んでいくのがサポステの就労支援です。

私たちサポステ職員が利用者と一緒に大切に行っていることは2つあります。1つ目は、利用者本人が本来持っている力を発揮できるようサポートすること。2つ目は、無業状態から就労するにあたり「自分で選択して就労に結びついた実感」をつかめるように、サポートすることです。今回は、そんなサポステの就労支援の一部をエピソードとともにご紹介いたします。

子ども・若者総合相談窓口



京都市からの委託を受けて、子ども・若者総合相談窓口を運営しています。

京都市内在住の39歳までの若者やそのご家族、および支援者の方々の相談の入り口として、まずは話を聴いて、相談内容の整理や課題を確認し、助言や適切と思われる支援機関の情報提供などを行います。

今年度よりコロナ禍の対策として、オンライン相談も始めました。リラックスして話せるなど、おおむね好評です。

相談内容は、将来のこと、友達のこと、学校のこと、家族のことなど多様です。そして、これら相談の裏側には、様々な課題や問題が絡み合っていると感じます。

お話を丁寧に聴き、紐解きながら、相談者の方と一緒に考えていく姿勢を大切にしています。

特に、紹介することの多い支援機関については、単に情報をお伝えするだけでなく、時に支援機関に直接出向かせていただくなどアンテナを張りながら、雰囲気なども含めて最新の情報をお伝えできるように心がけています。

ただし、現状の相談窓口体制では、難しい相談もあります。窓口相談の性質上、本人やご家族の相談室での語りをもとに助言なども行います。しかしこの語りは、本人の場合、こだわりや過去の経験、固い価値観から生み出されるものがあったり、ご家族の場合、その方の価値観での見立てになり、相談の主である本人が見えなかったりすることもあります。

定着支援
ステップアップ支援

キャリアの相談

働く 就職決定 就職決定 「働く」を体験する準備する・応募する 自分と職業について考える

Tさんの場合 (キャリア相談～定着ステップアップ支援の段階)

コロナ禍で内定取り消しとなったTさん。観光業に興味があったけれどもコロナ禍で求人がなくなり、他の職種を探さないといけなくなり、進路に迷っていました。キャリアコンサルタントによる「キャリアの相談」で働くことに関する価値観を明確にする作業を行ないながら、プログラム「自分を知って仕事に就こう」に参加。それが、興味のある仕事に気がつきかけとなり、職場体験を通して自分の働いていく仕事として確信。まずは、アルバイトに応募し、採用されました。働きながら、「ステップアップ支援」を利用し、1ヶ月に1回程度の面談でアドバイスを受けて、情報を集め、半年後には正規雇用として働き始めました。



「自分を知って仕事に就こう」

こころの相談

コミュニケーションと自己表現について体験する 自己理解を深める

Nさんの場合 (こころの相談の段階)

Nさんは、前職で辛い経験をし、休職、のちに退職されていました。初回の相談で今の状況話し、まずは、臨床心理士による「こころの相談」を利用、過去の経験の整理から始めることにしました。また、プログラム「ワーコミ(ワークとコミュニケーション)」に参加し、働くことの悩みを参加者同士でシェア。そこで、辛かった経験から粘り強さや真面目さという自分の強みを自覚し、「もっと自分にはできることがあるのではないか?」と考えました。その後、他のプログラムにも参加しながら自分のできることをひとつずつ増やしていき、Nさんの強みである粘り強さや真面目さが徐々に発揮されるようになりました。



「ワーコミ」

お2人に共通していることは、「働きたす力」があり、それがサポステでの体験を通して出せるようになったことです。「サポステに相談してみよう」とご連絡をいただくことは、「働きたす」一歩だと思っています。勇気をもって踏み出す一人一人の気持ちを応援します。

どこに相談したらいいかわからない

075-708-5440

子ども・若者総合相談窓口

申込フォーム

ゆっくりと時間をかけて、時には相談期間に得た体験を振り返りながら、本人の価値観を緩めることが必要な場合もあります。

現状の窓口業務では、丁寧に話を聴くという事はできても、「ゆっくり」と「ができません」。このような場合、青少年活動センターとの連携が欠かせません。たとえば、居場所が欲しいという相談者については、センターの事業を紹介し、そこで、センターのワーカーと一緒に体験と振り返りをします。ご相談者の同意を受け、そこでの語りや様子をワーカーから聞きながら、再度アクセスメントを行い、助言や情報提供を行います。

もちろん、これらは青少年活動センターだけでなく、様々な支援機関と行うことが理想です。その支援の輪を広げることで、先述した、丁寧に相談に繋がられるよう意識しています。

相談を希望される方は、お電話もしくはホームページ、QRコードから相談予約が可能です。お気軽にご連絡ください。

ユースかわら版

広報誌に関する
「意見」「感想」は
「すくろく」へ
お気軽に！



きたせいに行こう！



北青少年活動センター(きたせい)の8月はイベント月間でした。その中でも「カプラタワータイムアタック」が盛り上がりました！制限時間1分でひたすらカプラを積み上げます。簡単だからこそ多くの青少年が熱くなりました。最高記録は102cm！15日(日)には「きたせい地蔵盆」も実施。町内でも「きたせい」が盛り上がり、露店がきたせいに出現し、いつものロビーが夏祭りの雰囲気。スパーボールすくい、的当てに見立てたダーツ、最後はみんなでビンゴ大会！その他にも毎日何か楽しいことが起こる8月のきたせいでした。参加した若者にとって、夏休みの楽しかった思い出のひとつになっていれば嬉しいです。延べ43人の若者が参加しました。



これから

『ものづくりプログラム EPP(エプ)』メンバー募集！

東山青少年活動センターのテーマの1つ、「ものづくり」の新プログラムがスタート！
日常にあるアイテムを使い、集まったメンバーでものづくりをします。実験をするように、自由にアイデアを出し合い、みんなで考えながら創作をする時間。
いろいろなものづくりに触れてみたい人、誰かと一緒につくってみたい人、単純に楽しいことをしたい人など、一緒に活動するメンバーを募集しています。

活動日(3月末まで)
毎月第3土曜日 14:00~17:00
対象
市内在住・通勤・通学の中学生~30歳までの方で、継続して参加できる方
定員
8名
(登録制。定員に達し次第締め切り)
参加費
各回300円
問い合わせ先
東山青少年活動センター



サンキュー、バナナ



伏見青少年活動センターでは、フードバンク事業にも取り組む「ゴズモズインターナショナル」様から定期的に提供していただいている食品を、隔週日曜日に時間限定で開店するロビー喫茶(ジュースとお菓子が大人気や、自習室やフリータイムに参加する若者に配るなどして活用させてもらっています。最初は遠慮気味だったけれど、最近では「今日は無いの？」と楽しみにしている若者が増えてきたので、



『しもせいギャラリー』オープン！



下京青少年活動センターの地下1階ロビーをギャラリースペースとして開放し、若手作家の活動発表を支援することを目的に、『しもせいギャラリー』をはじめました。1回目の企画展は、佐俣和木さん(現代アート作家)による遊びとスポーツを題材にした参加体験型の企画展「スポーティ、ダイバート」。フライングディスクエリアでは、フライングディスクや自転車カゴなど廃材を活用したものや、音の出る仕掛けのゴールが設置され、思わず投げたくなるディスクゴルフ場のようです。鉛をなめながら休憩できるスペース、壁面タイルを活用した迷路もあり、子どもから大人まで楽しめるアクティビティパークのような空間となっています。展示は、10月31日(日)まで開催しています。

夏季インターンシップの学生と一緒に企画をし、感謝の声をメッセージカードにして届けました。「勉強の合間にいただきました。」

すくろく、完成！



私たち「ユースカウンシル京都」は「京都にゆかりのある人たちの暮らしをより良くする」をビジョンに、協会内事業として活動しています。感染症の脅威に晒され、自粛を余儀なくされる現在、観光客は減少し、地元活気も少しずつ失われていっています。そのような中で私たちにできることを模索し、完成したのが「中京区街歩きすくろく」です。全ての人が京都を身近に感じ

てもらえるよう、京都市中京区を舞台に街歩きを疑似体験できるすくろくになっています。目指したのは実際の地図としても使えるゲームです。遊ぶだけでなく地図としても活用できるよう工夫を凝らしました。ぜひご家庭で活用ください。困難なことが多い時代ですが、近い将来にこの逆境を乗り越えることができる！ 実際の街でゲームをすることができるようになる！ そんな未来に思いを馳せて制作しました。そんな未来をたくさんの人と共有することができそうです。



ご寄付のお願い

公益財団法人 京都市ユースサービス協会では、ユースサービスの理念に基づいて、若者が学校・地域の中で他者と出会い、関わりながらさまざまな挑戦や課題を乗り越える力を身につけ、豊かな大人へと成長していくための支援に取り組んでおります。若者をとりまく課題は多岐にわたっていますが、特に現在はコロナ禍において若者の活動の機会が制限される状況も生まれてきており、今後さらに多様なニーズに添えていく必要があります。市民の皆様には「寄付」という形で協会の取り組み、若者への支援としてご協力いただけますよう、お願いいたします。

郵便振替 口座番号	00950-2-172487
口座名義	公益財団法人京都市ユースサービス協会

※専用払込取扱票が必要な場合は、京都市ユースサービス協会事務局までお問い合わせください。



若者の力が社会を創る。

公益財団法人 京都市ユースサービス協会の 新型コロナウイルス対策について



- 京都市と協議を行い、新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインを以下のような基本方針をもって策定しました。
- 新型コロナウイルス感染症の拡散状況を鑑み、若者の置かれている状況に合わせて対策を講じつつ、本来の若者自身の活動・成長機会が損なわれないための機会づくりを模索する。
 - コロナ禍においての状況、またコロナにより明確になった若者の置かれている状況や、若者の声を社会に届けることに取り組む。
 - スタッフ(職員・アルバイト・ボランティア等)個人の心身状態にも配慮するとともに、若者を始めとする利用者の健康面に留意し、利用者への感染症対策への協力依頼を含め感染症対策を講じつつ、日々の施設運営・事業運営に取り組む。
 - 従来の方法にとらわれず、これまでの代替手段としてだけでなく、これまでをふりかえりつつ、かかわりをより良くアップデートしていくことを試みる。
 - 委託・指定管理を受けている行政機関との情報共有・協議に取り組むとともに、市民に対する説明責任を果たせるようにする。
- 詳しい対応策に関しては、当協会ホームページをご覧ください。



発行：公益財団法人 京都市ユースサービス協会
〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下角御射山町262
TEL: 075-213-3681 FAX: 075-231-1231
E-mail: office@ys-kyoto.org HP: http://www.ys-kyoto.org
印刷：株式会社谷印刷所 デザイン：株式会社オム